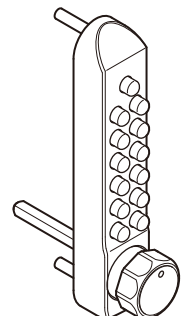
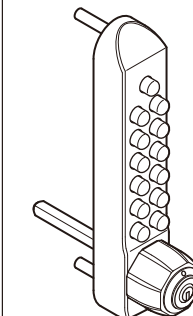
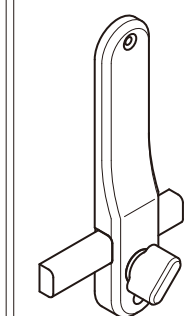


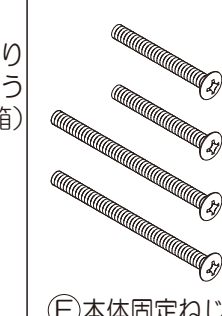
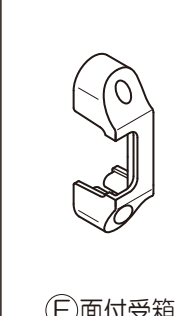
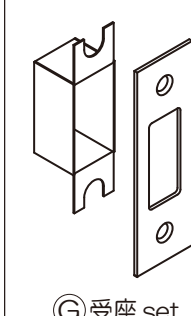
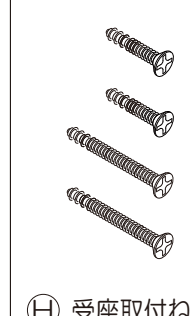

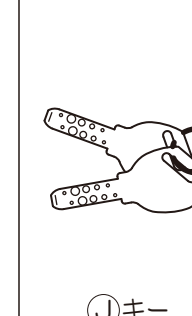




このたびは NAGASAWA 製品をご採用いただき、誠にありがとうございます。
製品を正しく施工していただくために、本説明書の内容をご確認ください。
引渡し時に、別紙取扱説明書（お施主様向）を、お施主様へお渡しください。
締め付け時は、必ず手動ドライバーをご使用ください。電動ドライバーは使用しないでください。

面付本締錠 取付説明書

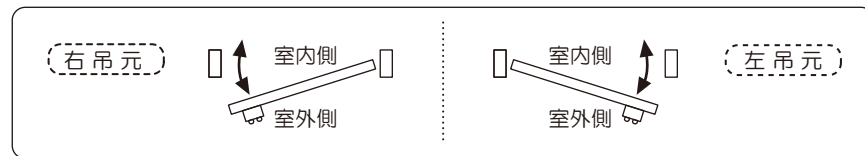
梱包内容一覧・表を参照のうえ、部品の有無をご確認ください。

										
Ⓐ KL22204 本体 1	Ⓐ K582TM 本体 1	Ⓑ キーレックス室内座 1	Ⓒ 樹脂ベース 厚さ 2 mm 2	Ⓓ 樹脂ベース 厚さ 4.5 mm 3	Ⓔ 本体固定ねじ L=30 2 L=50 2	Ⓕ 面付受箱 1	Ⓖ 受座 set 1	Ⓗ 受座取付ねじ L=25 2 L=40 2	① 取説 set 1	Ⓙ キー (K582TM の①に同梱) 2

1 取付前の準備

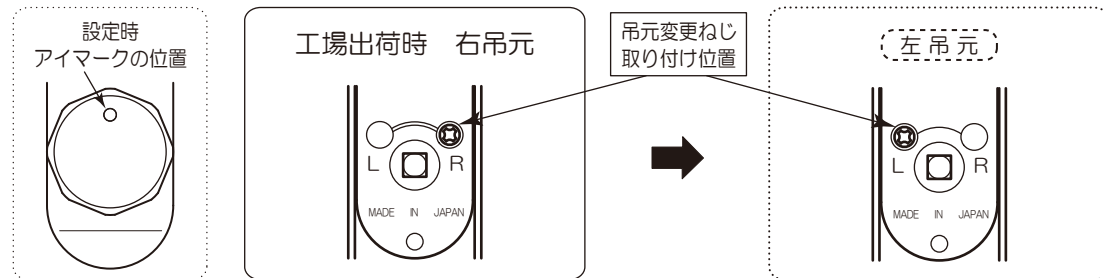
【1】扉の吊元の確認

下図で扉の吊元を確認します。



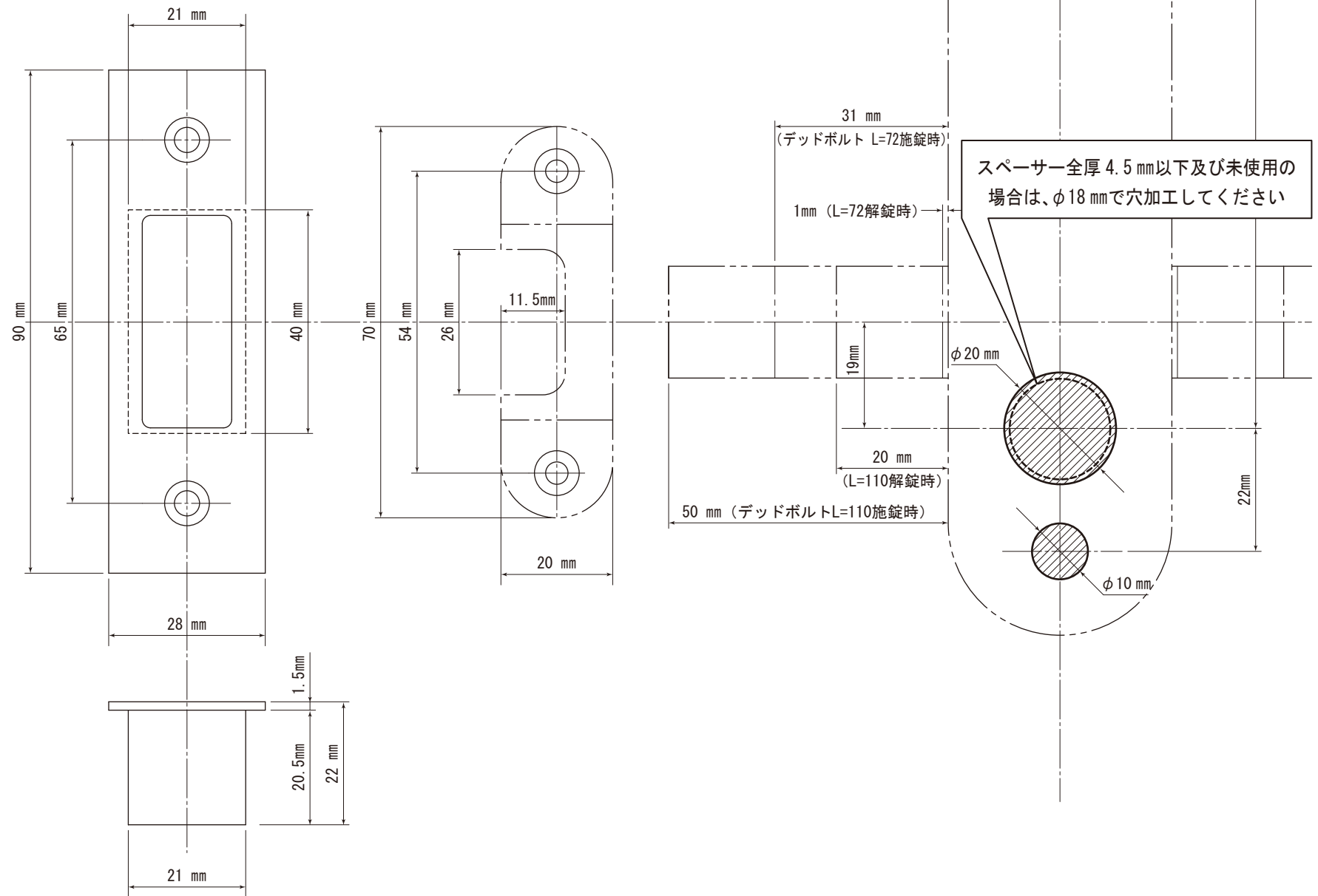
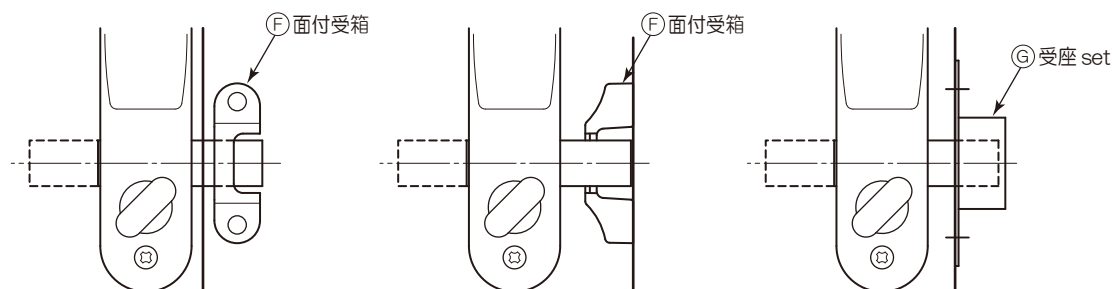
【2】Ⓐキーレックス本体裏の設定

吊元変更ねじの位置 吊元にあわせませう。工場出荷時は右吊元位置に取り付けてあります。
左吊元時にはねじを入れ替えてください。
吊元変更ねじはしっかりと締め付けてください。
吊元変更ねじの変更後は、ロックターンを回し作動確認をしてください。



⚠ 吊元変更ねじを逆の状態に取り付けた場合、解錠できなくなります。ご注意ください。

【3】扉と枠にあわせて、Ⓕ面付受箱、Ⓖ受座 set の取付方法を確認します。下図は取付例です。



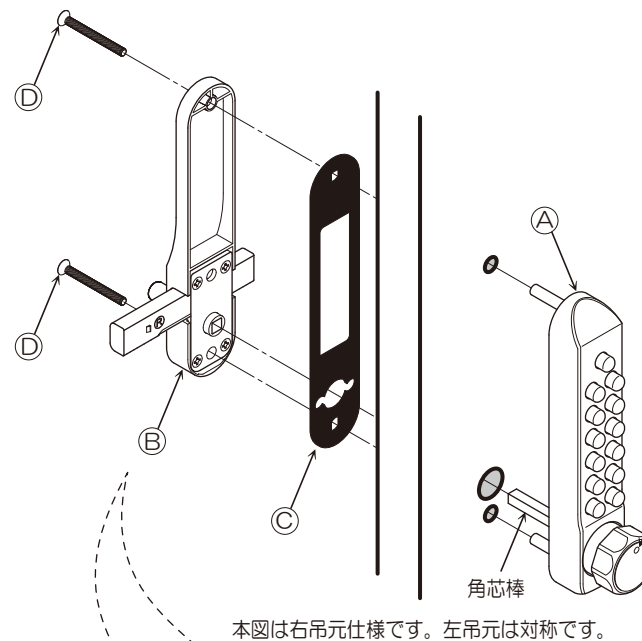
2 扉への取り付け穴加工

④ キーレックス本体・⑤ 面付受箱 ⑥ 受座 set（納まりにあわせて使い分けてください）の取り付け穴加工をします（裏面参照）。

3 記憶番号の確認

④ キーレックス本体にセットされている記憶番号を確認します。取扱説明書をご覧ください。

4 キーレックス 500 の取り付け： 扉は開けたままの状態、④⑤取り付けと、⑥作動確認をしてください。



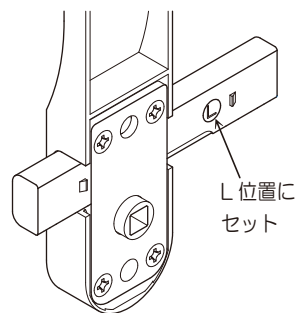
※ 鍵付タイプでは、キーを抜いた状態でセットします。
I：室外側に④ キーレックス本体をセットします。
II：④ キーレックス本体ロックターンのアイマークを左図の位置に
固定し、角芯棒を下図の向きに合わせて扉に差し込みます。
III：室内側から⑥ キーレックス室内座をデッドボルトの向きを
あわせてセットし、⑤ 本体固定ねじ 2 本で固定します。
※：⑥ 樹脂ベースは必要に応じてお使いください。



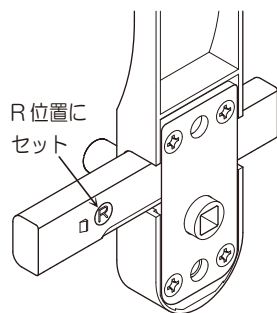
本図は右吊元仕様です。左吊元は対称です。

⑥ キーレックス室内座裏側のデッドボルトの向き

（左吊元）

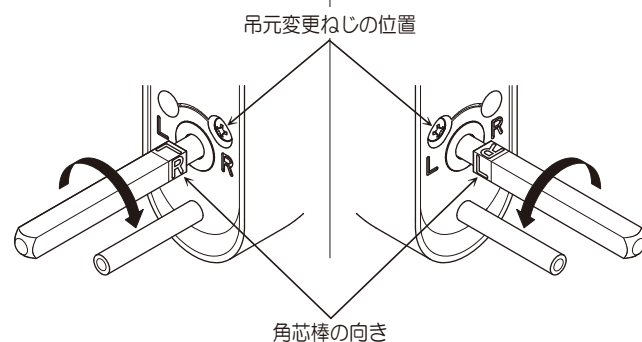


（右吊元）



④ キーレックス本体裏側

（右吊元）



（左吊元）

NAGA
SAWA

www.nagasawa-mfg.co.jp

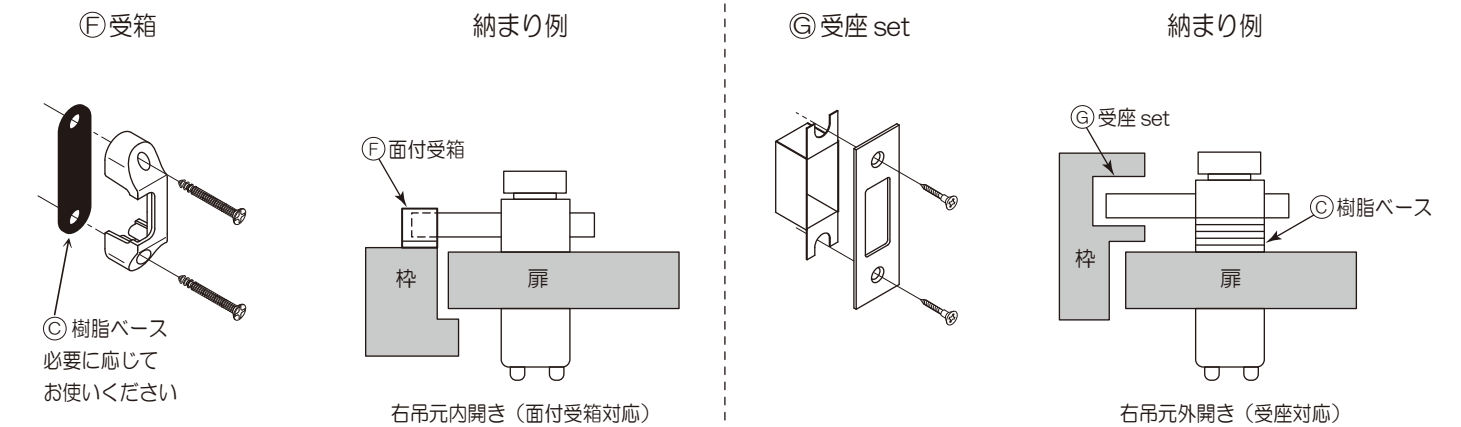
株式会社 長沢製作所

東京支店 TEL. 03-5383-1811（代） 福岡出張所 TEL. 092-524-7031（代）
FAX. 03-5967-3103 FAX. 092-524-7032
大阪支店 TEL. 06-6783-5091（代）
FAX. 06-6783-5092

5 面付受箱・受座の取り付け

7274702

⑤ 面付受箱 ⑥ 受座 set を枠に取り付けます。（納まりにあわせて使い分けてください）

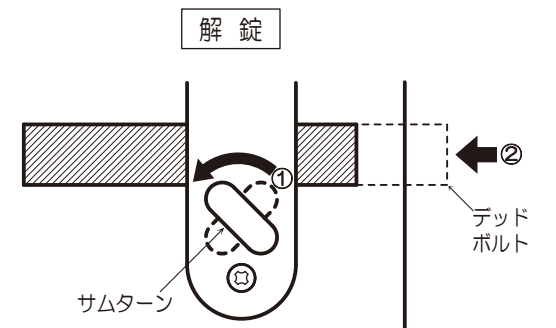
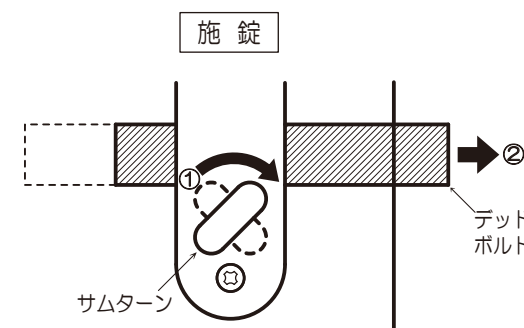


6 作動確認： ロックターン、サムターンが作動しない場合は、記憶番号と角芯棒の取り付け位置を確認してください。

施錠：①サムターンを回し、②デッドボルトが
飛び出すことを確認します。

室内側

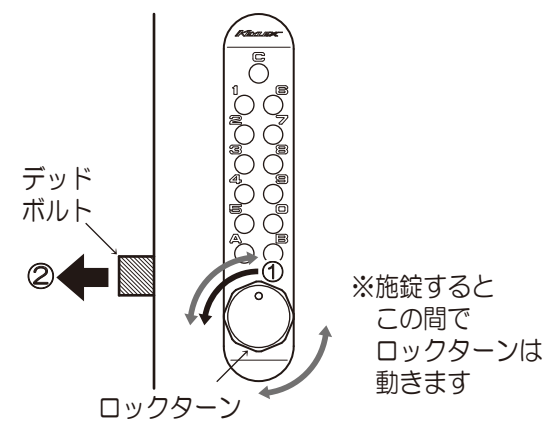
解錠：①サムターンを回し、②デッドボルトが
収まることを確認します。



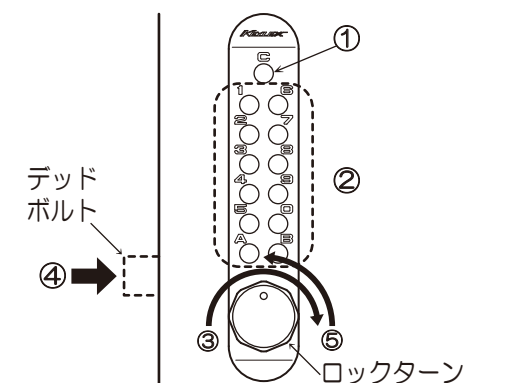
施錠：①ロックターンを回し、②デッドボルトが
飛び出すことを確認します。

室外側

解錠：①C ボタンを押し、②正しい記憶番号を押します。
③ロックターンを回しきり、
④デッドボルトが収まることを確認します。
⑤ロックターンのアイマークを図の位置に戻します。



※本図は右吊元仕様です。左吊元時は対称です。



鍵付タイプの場合は、ボタン操作を行わずに、キー操作で解錠できます。

施錠：①シリンダーにキーを入れて回し、②デッドボルトが出ることを確認します。

解錠：①シリンダーにキーを入れて回し、②デッドボルトが納まることを確認します。